

## 現 状

- ・世界自然遺産登録効果により平成23年度から増加した観光客は、近年、落ち着きを見せていたものの、平成28年度は前年度から約2割増加した。

## 課 題

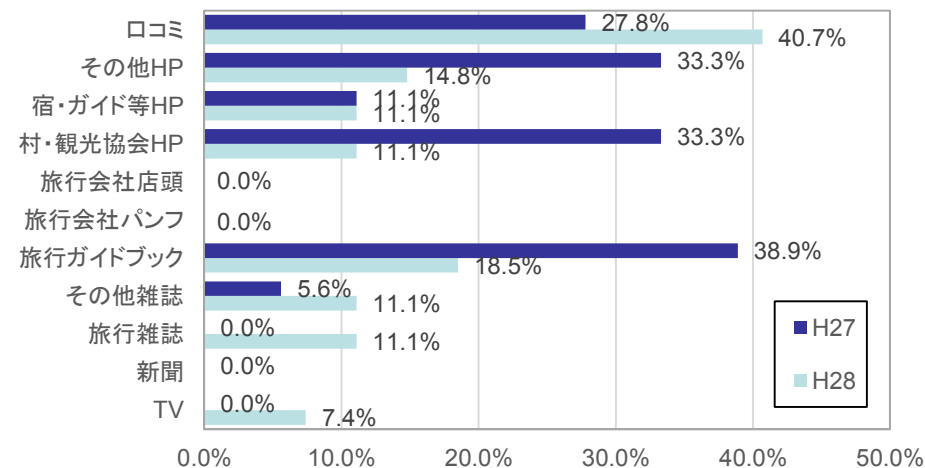
- ・関東以外の地域からの新たな観光客の誘致
- ・雨天時対策の観光メニューの開発 など

外国人観光客数の推移



出典:小笠原村調べ

きっかけとなった情報源



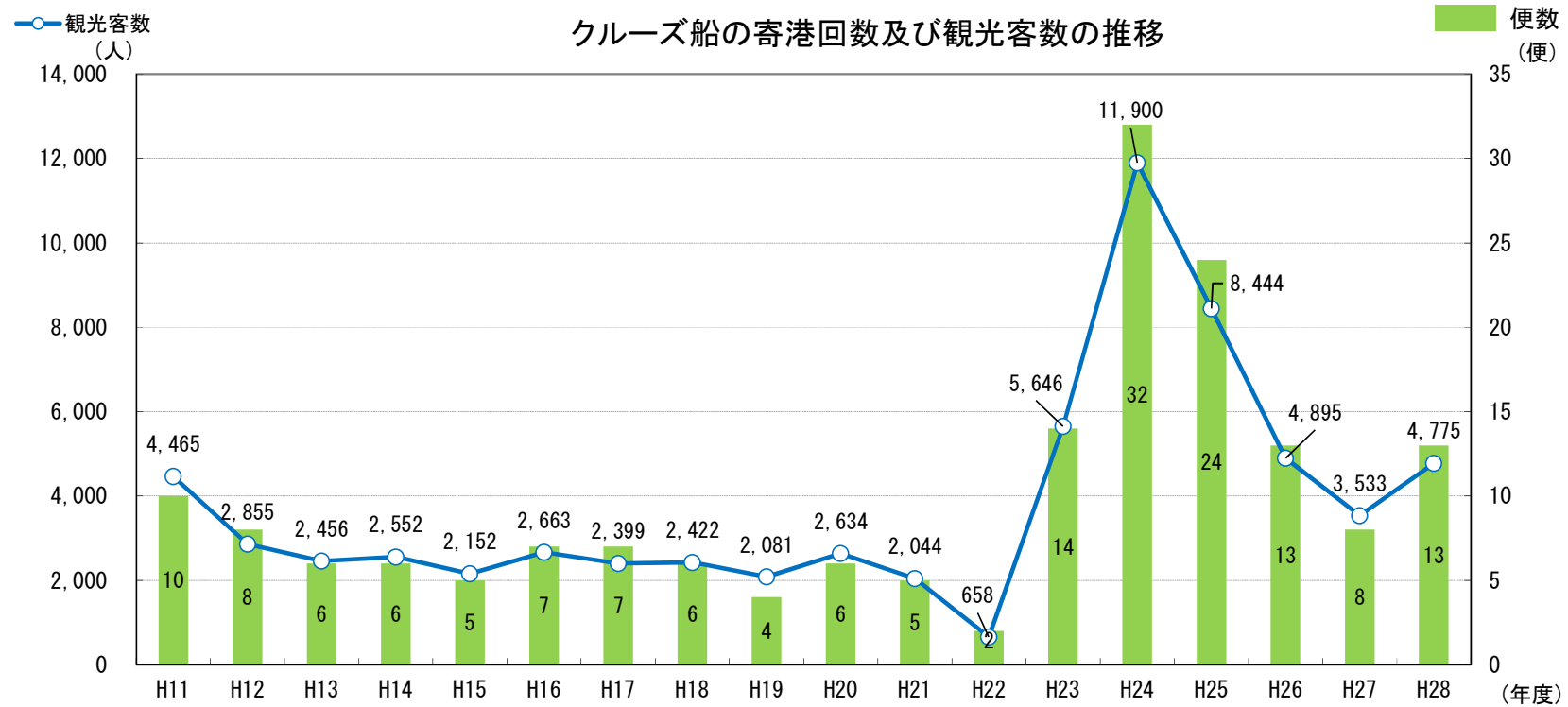
出典:小笠原村調べ

## 現 状

- ・外国人観光客数は、欧米で最も利用されているガイドブックへ掲載された効果もあり、平成27年度に増加した。

## 課 題

- ・各種案内、店舗等の多言語表記など、受け入れ環境の整備
- ・国内外に向けた情報発信の強化・充実による知名度・評価の向上



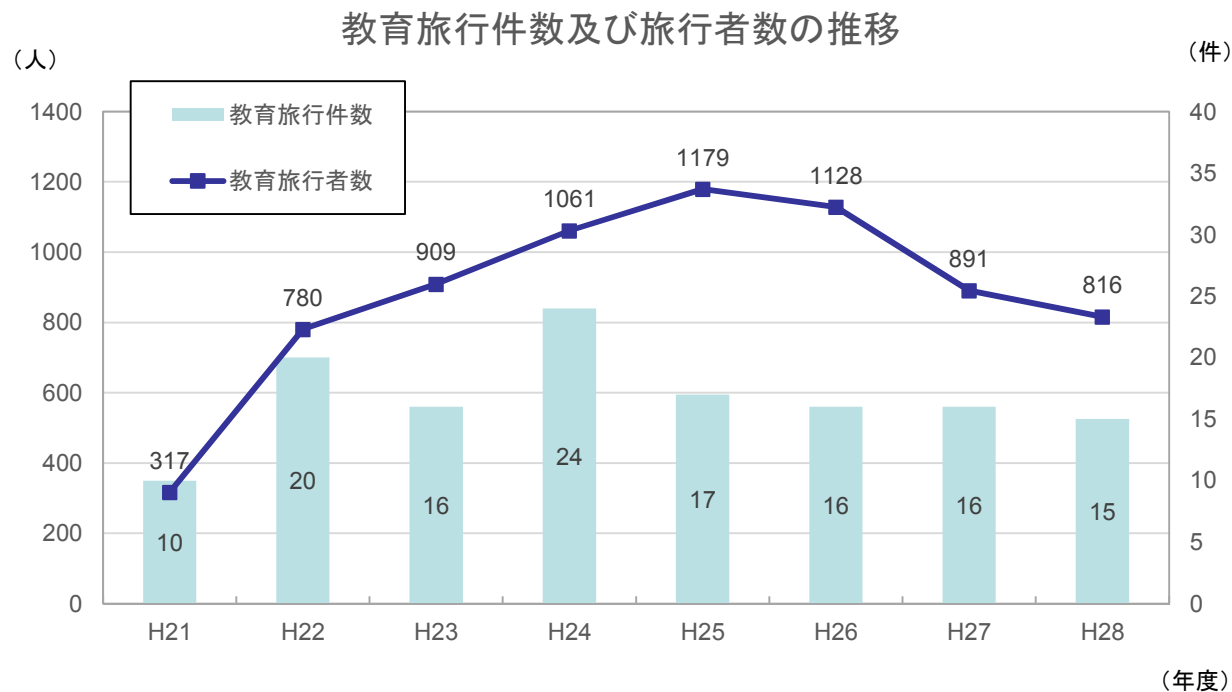
出典:小笠原村調べ

## 現状

- ・平成23年度の世界自然遺産効果により急激に増加したが、近年は落ち着きつつある。
- ・寄港のほとんどが日本のクルーズ船である。

## 課題

- ・多種多様な観光ニーズの掘り起こしや受け入れ環境の整備
- ・国内外に向けた情報発信の強化・充実による知名度・評価の向上



出典:小笠原村調べ

## 現 状

・教育旅行者数は近年下降気味であるものの、継続的な誘致活動の成果もあり、教育旅行件数は高い水準で推移している。

## 課 題

・新規校のみならず、過去に教育旅行を実施していた学校に対しても再度来島の誘致

## 2. 小笠原諸島の現状

### (3) 交通や基本インフラの状況

# 小笠原諸島の交通の状況(航路)

本土から小笠原諸島への交通アクセスは、航路に限定されている。

- ・東京(竹芝)と父島(二見港)の間は、片道約24時間、週に約1便の「おがさわら丸(貨客船)」が運航。
- ・父島(二見港)と母島(沖港)の間は、片道約2時間、1日に1便程度の「ははしま丸(貨客船)」が運航。
- ・建築資材などの重量物や危険物、産業廃棄物の運搬を行う「共勝丸(貨物船)」が、東京(月島)～父島(二見港)～母島(沖港)の間を、月に2～3便程度、不定期で運航。

## ●おがさわら丸 (本土～父島航路)



小笠原海運株式会社 提供

おがさわら丸 (H28年7月就航)

総トン数	11,000トン
旅客定員	894名
全長	150m
型幅	20.1m
航海速力	23.8ノット
航海時間	24時間

## ●ははしま丸 (父島～母島航路)



伊豆諸島開発株式会社 提供

ははしま丸 (H28年7月就航)

総トン数	499トン
旅客定員	200名
全長	65.2m
航海速力	16.5ノット
航海時間	2時間

## ●共勝丸 (本土～父島～母島航路)



株式会社共勝丸 提供

共勝丸 (H5年11月就航)

総トン数	317トン
全長	63.47m
航海速力	12.8ノット
航海時間	本土～父島 44時間 父島～母島 3時間



# 主要インフラの整備率

主要インフラの整備率は、各種公共事業の実施により高い水準であるが、村道の道路改良については全国に比べて低い水準である。

## 主要インフラの整備率の推移

(単位: %)

区分	水道普及率				水洗化人口率				汚水処理人口普及率			
	H15 年度末	H20 年度末	H25 年度末	H27 年度末	H15 年度	H20 年度	H25 年度	H27 年度	H16 年度末	H20 年度末	H25 年度末	H27 年度末
小笠原村	99.3(父) 100.0(母)	99.1(父) 99.7(母)	99.3(父) 100.0(母)	99.9(父) 100.0(母)	100.0(父) 100.0(母)	100.0(父) 100.0(母)	100.0(父) 100.0(母)	100.0(父) 100.0(母)	99.3	99.7	99.8	99.8
全国	96.9	97.5	97.7	97.9	87.1	90.7	93.5	94.3	79.4	84.8	88.9	89.9

区分	国・県道改良率(幅員5.5m以上)				市町村道改良率(幅員5.5m以上)			
	H16.4	H21.4	H26.4	H28.4 (全国はH27年度)	H16.4	H21.4	H26.4	H28.4 (全国はH27年度)
小笠原村	98.4(都道)	98.4(都道)	98.4(都道)	98.4(都道)	5.2	4.8	12.9	12.9
全国	73.0	75.0	76.5	76.7	16.5	17.5	18.2	18.3

出典: 東京都、小笠原村調べ

## 2. 小笠原諸島の現状

### (4) 小笠原諸島の生活に関する指標



# 医療の状況

## ○父島・母島それぞれに村営診療所

・住民、観光客のほか、南方域で操業する他県船、作業船、外国船の患者が救急で受診するケースもある。



小笠原村診療所  
(平成22年5月オープン)



小笠原村母島診療所  
(平成6年4月建替え)

## ○年1～2回専門診療を実施

・小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、精神科、産婦人科(年6回)

## ○急患搬送

・海上自衛隊の協力により、航空機を利用して本土に搬送  
・平成28年度実績:21件(23人)、病院収容まで平均10時間24分

名称	父島	母島
	小笠原村診療所	小笠原村母島診療所
施設	鉄筋コンクリート造2階建て 延床面積 2268.96㎡ 診察室 3室(医科2、歯科1) 病床数 9室9床	鉄筋コンクリート造2階建て 延床面積 743.3㎡ 診察室 2室(医科、歯科各1) 病床数 2室4床
スタッフ	[医科]医師 3名 看護師 9名、助産師 1名 薬剤師 1名、X線技師 1名 理学療法士 1名 臨床検査技師 1名 栄養士 1名、調理師 3名 [歯科]医師、技工士、衛生士 各1名 [事務]課長以下4名 [その他]併任職員(都保健所)	[医科]医師 1名 看護師 3名  [歯科]医師、衛生士 各1名 [事務]非常勤職員
常設診療科目	内科、外科、歯科	内科、外科、歯科
診療実績 (平成26年度)	[医科] 年間外来患者数 9,002人 1日平均患者数 36.8人(外来244日) 年間入院患者数 79人 年間入院実日数 338日 [歯科] 年間外来患者数 1,147人 1日平均患者数 4.7人(外来244日)	[医科] 年間外来患者数 2,553人 1日平均患者数 10.4人(外来244日) 年間入院患者数 10人 年間入院実日数 18日 [歯科] 年間外来患者数 2,014人 1日平均患者数 8.2人(外来244日)

## 現 状

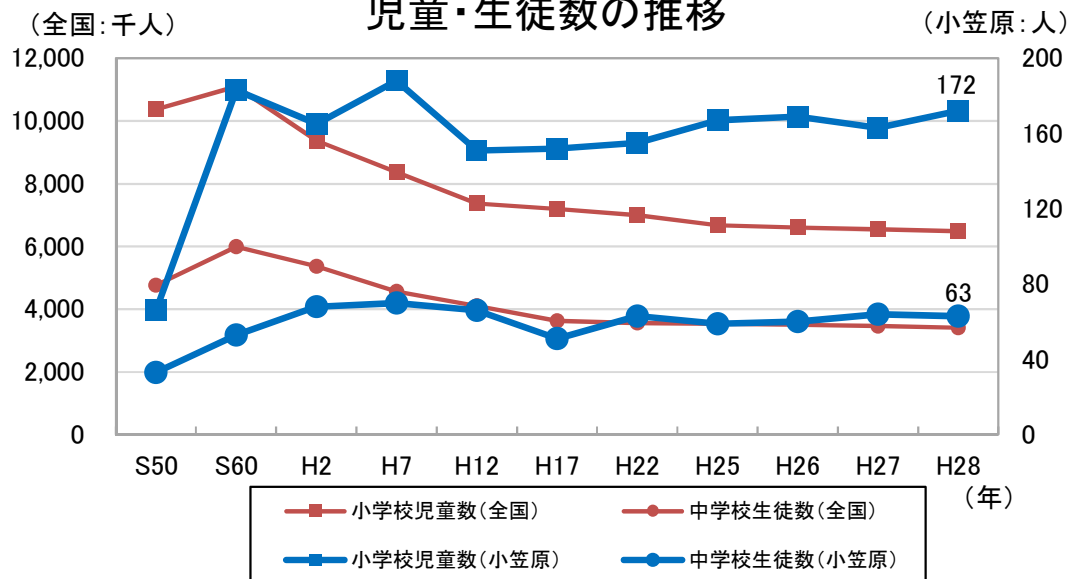
・診療科目が限られ、専門診療は本土の医療機関から医師を招へいし実施。  
・島内では出産ができないため、妊娠8ヶ月の時点で内地出産のため上京し、長期滞在が余儀なくされる。

## 課 題

・医療従事者や救急医療体制の維持・確保、予防医療の充実、出産への支援

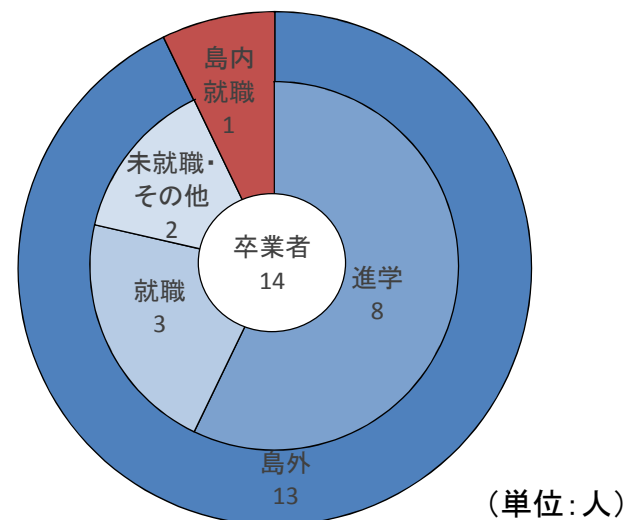
# 教育の状況

## 児童・生徒数の推移



出典:管内概要(東京都)、文部科学統計要覧(文部科学省)

## 高等学校卒業者の進路状況(H28.5)



出典:学校等調査

### 現状

- ・小学校及び中学校は父島・母島にそれぞれ1校ずつ、高等学校は父島に1校設置。
- ・平成12年以降、児童数は増加傾向。
- ・高等学校卒業後は進学等によりほとんど島外へ転出。

### 課題

- ・父島の小・中学校については、経年劣化と併せて、児童・生徒数の増加によって手狭となっているため、建替えによる教育環境の向上が求められている。

### 3. この5年間に講じた施策の効果

# 計画期間中の主要指標の変化

	前々計画(H16~H20)期間			前計画(H21~H25)期間			現行計画(H26~H30)期間		
人口	H17	2,336人		H22	2,397人 (+61)		H27	2,505人 (+108)	
高齢化率	H17	8.5%		H22	9.2% (+0.7)		H27	12.7% (+3.5)	
財政力指数	H20	0.31		H25	0.25 (▲0.06)		H27	0.25 (-)	
生活保護率	H20	0.54%		H25	0.82% (+0.28)		H28	0.75% (▲0.07)	
有効求人倍率	H20	0.63倍		H25	0.55倍 (▲0.08)		H28	0.60倍 (+0.05)	
農業生産額	H17	108百万円		H22	115百万円 (+7)		H27	131百万円 (+16)	
入込客数	H20	21,565人		H25	32,887人 (+11,322)		H28	29,766人 (▲3,121)	
外国人来島者数	H20	91人		H25	165人 (+74)		H28	255人 (+90)	
医師数	H20	一般3+歯科3人		H22	一般3+歯科3人 (-)		H26	一般4+歯科3人 (+1)	

出典：国勢調査、小笠原総合事務所資料、東京都資料、小笠原村資料

## 二見港の整備(父島)

### 施設の概要

小笠原諸島への交通アクセスは、週約1便の「おがさわら丸」(片道約24時間)に限られており、父島の二見港は、島民生活の維持、産業の振興等に必要不可欠な施設であるとともに、周辺海域における船舶の避難、休憩、補給基地としての役割も担っている。

### H26～H30の主な事業

- 新「おがさわら丸」及び新「ははしま丸」の就航(H28.7)に対応するための岸壁(-5.0m)の延伸(20m)(H26～H27)、及び泊地(-5.0m)のしゅんせつ(H26～H27)
- 棧橋構造の老朽化が著しい「ははしま丸」が接岸する岸壁(-5.0m)の改良(H27～H29)
- 津波による損傷が懸念される小型船用物揚場の防波堤の改良(H27～H29)
- 地震や津波などで被害が生じても応急・復旧活動に必要な人員・物資等の輸送機能を早期に確保するための「おがさわら丸」が接岸する岸壁(-7.5m)の改良(H30～H34)

#### 【予算額(H26～H30)】

事業費: 1,398百万円、国費: 911百万円(補助率 9/10、3/5)

### 効果

- 新「おがさわら丸」及び新「ははしま丸」の就航(H28.7)
- 村民の生活の維持、村民・観光客の安全の確保
- <評価指標>
- 「おがさわら丸」による入り込み客数  
H25: 24,443人 → H28: 24,991人



父島二見港



位置図(父島)

# 沖港の整備(母島)

## 施設の概要

母島の沖港は、父島と母島を結ぶ「ははじま丸」が就航しており、母島の島民生活の維持、産業の振興等に必要不可欠な施設であるとともに、周辺海域における船舶の避難、休憩、補給基地としての役割も担っている。

## H26～H30の主な事業

○新「ははじま丸」の就航(H28.7)に対応するための岸壁(-5.0m)の延伸(30m)(H26～H27)、及び泊地(-5.0m)のしゅんせつ(H26～H38)

【予算額(H26～H30)】

事業費:767百万円、国費:577百万円(補助率 9/10、3/5)

## 効果

○新「ははじま丸」の就航(H28.7)

○村民の生活の維持

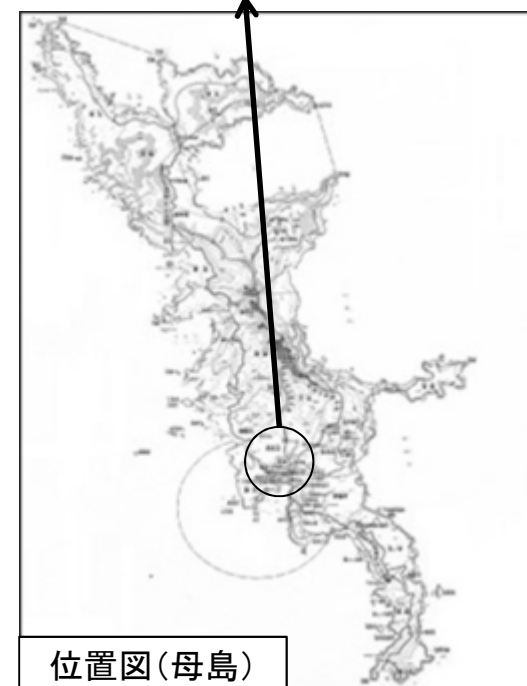
<評価指標>

○航海時間(2時間10分⇒2時間)

○ははじま丸による入り込み客数

H25:10,388人 → H28:10,565人

母島沖港



位置図(母島)



# 新おがさわら丸の整備

## 施設の概要

東京～父島間を運航する定期船「おがさわら丸」は、内地からの唯一の定期航路であり、島民、観光客のほか、生活必需品も運んでおり、島民の日常生活を支える生活路線である。

## H26～H30の主な事業

○平成9年3月に就航し、経年劣化が進んだ「おがさわら丸」の代替船の整備(H26～H28)

【予算額(H26～H28)】

事業費 9,130百万円、国費 547.8百万円(補助率 定額)

## 効果

○船室スペースの拡大による居住性・快適性の向上

○貨物スペースの拡大等による利便性の向上

<評価指標>

○運航時間の短縮

旧:25時間30分 → 新:24時間

○旅客定員の拡大

旧:769名 → 新:894名

○「おがさわら丸」による入り込み客数

H25:24,443人 → H28:24,991人



船名	新おがさわら丸	旧おがさわら丸
総トン数	11,035トン	6,700トン強
旅客定員	894名	769名
延床面積 (一人あたり面積)	約6,000㎡ (約6.7㎡)	3,597㎡ (約4.6㎡)
全長	150m	131m
型幅	20.4m	17.2m
航海速力	23.8ノット	22.5ノット
運航時間	24時間	25時間30分

# 農業生産基盤の整備

## 施設の概要

農業用水の安定供給を図るため、島内の農業地域にかんがい施設の取水堰、送水管及び送水管の末端の水槽を整備しており、島民生活の安定と農業生産の拡大を図っている。

## H26～H30の主な事業

- 路面のひび割れやブロック積の変位等の経年劣化した農道の整備(H26～H27)
- 経年劣化により漏水が発生している可能性が高い区間の導水管の補修工事(H26,H28)
- 経年劣化により漏水が発生している水槽の更新(H26,H28～H30)

【予算額(H26～H30)】

事業費 232百万円、国費 139百万円(補助率 6/10)

## 効果

- 導水管の維持管理の効率化
  - 農業用水の安定供給
- <評価指標>
- 農業生産額

H25:129,917千円 → H27:130,549千円



漏水状況



農道の劣化状況



昭和47年に設置された経年劣化や漏水が発生しているFRP水槽



水槽更新後  
(コンクリート水槽)



# 二見漁港の整備(父島)

## 施設の概要

第4種漁港として他県船の避難・休憩・前進基地としての役割のほか、地元漁業者の生活安定に大きく寄与するとともに、観光遊漁船やプレジャーボート等の拠点として利用されている。

## H26~H30の主な事業

○台風等の悪天候時には波浪の影響を受けて安定的な係留が困難な状況になる港口前面岸壁(-4.5m)の静穏性を高めるための防波堤の整備(70m)(H26~H29)

【予算額(H26~H30)】

事業費 995百万円、国費 896百万円(補助率 9/10)

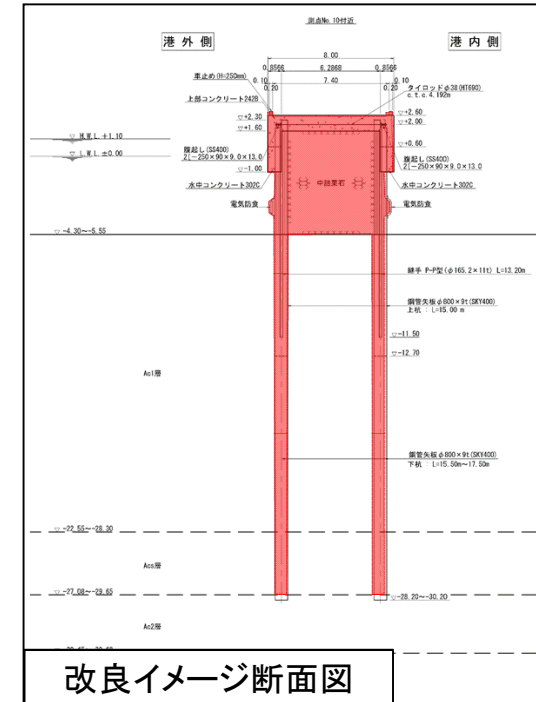
## 効果

- 村民の生活の安全の確保
- 漁船や観光業者の遊漁船が安全に停泊できる水域の確保
- 津波による漁業施設への被害低減

<評価指標>

- 漁獲金額

H25:501百万円 → H28:764百万円



改良イメージ断面図

# 水産業振興のための施設整備

## 施設の概要

昭和54年に整備された漁船修理施設は、漁船の維持管理に必要な不可欠の施設である。

また、小笠原島漁業協同組合における漁労就業者は、大半を島外から募集しており、近年、就労希望者の平均年齢上昇に加え、扶養親族の存在割合が増えつつある。船員厚生施設は、新規漁労就業者を対象とした独立するまでの仮住まいとする施設である。

## H26～H30の主な事業

- 塩害による老朽化及び集塵装置がないことから作業員の健康悪化が懸念される漁船修理施設の改修(H26)
- 漁労就業者確保のための船員厚生施設の新設整備(H28~H29)

【予算額(H26~H30)】

事業費 220百万円、国費 88百万円(補助率 4/10)

## 効果

- 漁船修理作業員の作業環境の改善や作業効率の向上
  - 小笠原島漁協の新規就業者の確保・育成の促進
  - 雇用の拡大
- <評価指標>
- 漁獲金額

H25:501百万円 → H28:764百万円



二見漁港



漁船修理施設



船員厚生施設

# 自然環境の保全・再生

## 施設の概要

小笠原諸島は昭和47年に国立公園に指定され、自然を適切に利用した園地、歩道等の整備を推進するとともに、同諸島の優れた自然を次の世代に残すため、植生回復事業等を行っている。

## H26～H30の主な事業

- ノヤギや侵略的外来種であるグリーンアノール等の外来種駆除 (H26～H30)
- 小笠原諸島の優れた景観を次世代に残すための固有種を中心とした植生回復事業(H26～H30)
- 過酷な自然条件により利用者に危険な状態が散見される園地、歩道の整備(H26～H30)
- 観光客への指導・解説を行う自然ガイドの育成(H26～H30)

【予算額(H26～H30)】

事業費 2,437百万円、国費 1,218百万円(補助率 1/2)

## 効果

- 観光客の安全の確保
- 小笠原諸島の観光資源としての価値の維持
- 固有種をはじめ植生景観の破壊の抑制
- 土砂の流出による漁場等への被害の低減

ノヤギの駆除数(頭数)

H26～H28 : 899頭

グリーンアノール駆除数(兄島)

H25.8～H29.11 : 39,502個体(推計)

グリーンアノールの駆除



ノヤギの駆除



外来植物の駆除作業



モマヤシ駆除後の植生回復(兄島)



父島海岸線歩道



落石危険箇所



自然ガイド育成





# 道路の整備

## 施設の概要

都道は、安全かつ円滑な交通網及び島内の観光ルートの確立に必要な島の幹線道路であり、村道は、集落地域を中心とし、村民生活に密接した産業振興・生活基盤道路である。

## H26～H30の主な事業

- 狭隘で見通しが悪く相互交通が困難な都道の拡幅整備 (H26～H28、H30)
- 崖崩れや落石等の恐れがある都道の災害防除(H26～H30)
- 安全性と景観に配慮した排水性舗装による村道改良(H26、H28、H29)
- 橋梁及びトンネルの定期点検とそれに基づく補修工事 (H26～H29)

【予算額(H26～H30)】

事業費 570百万円、国費 342百万円(補助率 3/5)

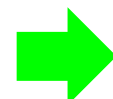
## 効果

- 島民や観光客の安心・安全の確保
- 橋梁やトンネルの計画的かつ効果的な維持管理

### 災害防除イメージ



### 拡幅イメージ



### 排水性舗装イメージ



冠水した村道

舗装後イメージ

# 簡易水道の整備

## 施設の概要

簡易水道事業は、村民の安心・快適な生活環境の実現に向け、原水の確保、浄水場施設の整備・運営、老朽管取替、管口径の増補及び管網の整備を行い、清浄で安定した水道水の供給に必要な事業を実施している。

## H26～H30の主な事業

- 渇水時や災害時における島民・観光客の飲料水の確保、良好な生活環境の維持を図るための第2原水調整池の整備 (H26～H30)
- 昭和48年に建設され、経年による施設の老朽化が著しい沖村浄水場の更新工事(H26、H28、H30)
- 昭和50年に設置され、老朽化が進行し、地震等により破損する恐れのある清瀬配水池の建替(H27～H29)
- 管末地域の安定水圧、水質を確保と緊急時における給水対応のため配水管の新規敷設(H26、H28～H30)

### 【予算額(H26～H30)】

事業費 2,344百万円、国費 1,172百万円(補助率 1/2)

## 効果

- 清浄で安定した水道水の供給が図れ、良好な生活衛生環境の維持・確保

<評価指標>

- 水道普及率(%)

H25: 父島99.3、母島100.0 → H27: 父島99.7、母島100.0

清瀬配水池の建替



配水管の新設



沖村浄水場の改良



老朽化状況



管理棟完成状況

	父島浄水場	母島浄水場
給水能力	1, 100m <sup>3</sup> /日 2, 300人分	310m <sup>3</sup> /日 530人分
平均配水量	689m <sup>3</sup> /日	146m <sup>3</sup> /日
最大配水量	900m <sup>3</sup> /日	206m <sup>3</sup> /日
給水件数	1, 394件	305件
人口	約2, 000人	約500人

# し尿処理施設の設備更新

## 施設の概要

小笠原諸島の世界的に貴重で豊かな自然環境を守るため、中心市街地はコミュニティプラント整備区域とし、それ以外は合併浄化槽整備区域として効率的・効果的に、水質汚濁防止を図っている。小笠原村のし尿処理施設は、父島が昭和48年、母島が昭和55年に稼働を開始しており、老朽化対策が課題となっている。

## H26～H30の主な事業

- 老朽化している汚泥処理設備・砂ろ過設備・水処理設備等の機械設備の更新(父島)(H29～H30)
- 老朽化している現場制御盤・脱水機のケーキコンベア・ポンプ類・掻寄機等の機械設備の改良工事(母島)(H26～H28)

【予算額(H26～H30)】

事業費 500百万円、国費 250百万円(補助率 1/2)

## 効果

- 自然環境保護に寄与
- 安定的な放流水質の確保

### 父島

水処理設備 曝気槽内部



砂ろ過装置



### 母島

濃縮汚泥ポンプ



汚泥注入ポンプ





# 病害虫防除及び試験研究

## 事業の概要

植物防疫法により特殊病害虫に指定されているアフリカマイマイ等の病害虫の防除を実施し、農業生産の安定・向上を図るとともに、昭和60年に根絶が確認されたミカンコミバエの再侵入に備え、トラップ調査、果実分解調査を実施している。

また、温暖な気候であること、近年の物流の活性化により、これまで島には生息が確認されていなかった新たな病害虫についての生態調査や防除方法の研究も行っている。

## H26～H30の主な事業

- ミカンコミバエ等のミバエ類が侵入していないか調査するミカンコミバエ等再侵入警戒調査(H26～H30)
- 植物防除法により移動が禁止されているアフリカマイマイ等の移動規制害虫防除(H26～H30)
- アフリカマイマイの効果的な防除方法確立のための指定病害虫防除試験研究(H26～H30)
- 農業に被害をおよぼす、各種病害虫に対し、効果的な防除法を確立するための一般病害虫防除試験研究(H26～H30)

### 【予算額(H26～H30)】

事業費 82百万円、国費 67百万円(補助率 10/10、1/2)

## 効果

- 農作物への被害の予防

<評価指標>

- アフリカマイマイの拾い取り範囲

- ・ 都道・農道における捕獲 H26-28:69.6ha
- ・ ほ場における薬剤防除 H26-28:276ha

### ミカンコミバエ等再侵入警戒調査



トラップ設置



果実分解調査

### アフリカマイマイ防除



アフリカマイマイ



拾い捕りによる防除

### 試験研究

#### 防除技術の現地検証

- ・ 被害農地からの一掃
- ・ 未侵入農地への侵入阻止
- ・ 一斉防除の効果  
(他の陸産貝類への影響)



小規模実験の例

#### 防除の研究・確立

1. 熱帯果樹等の病害虫防除技術の検討
2. 未解明病害虫の原因究明と防除対策の検討
3. 小笠原固有植物等の病害虫防除技術の確立

# 村営診療所への運営の支援

## 事業の概要

小笠原諸島は、本土から約1,000km離れた外海の離島であるとともに、航空路が未開設であり、総合病院のある本土まで定期船で24時間もの長時間を要することから、医療の面では事実上、他の地域から孤立した状態にある。このような状況の下、小笠原村では、島民、観光客、日本の南方海域を航行する船舶船員等が受診できるよう、父島及び母島に診療所を設置し、医師や必要な機材等を確保して一定の医療水準の維持に努めているが、診療所の運営については、国及び東京都の支援なしでは困難な状況である。

## H26～H30の主な事業

○ 診療所の管理運営に係る人件費や医療器材整備費等の経費の支援(H26～H30)

【予算額(H26～H30)】

事業費 1,198百万円、国費 599百万円(補助率 1/2)

## 効果

○ 村民・観光客・他県船船舶船員等の安全・安心の確保

○ 一定の医療水準の確保

<評価指標>

○ 医師数

H22: 一般3人+歯科3人 → H26: 一般4人+歯科3人

小笠原村診療所



小笠原村母島診療所





## 4. 本日のご議論に当たっての視点

小笠原諸島振興開発審議会において、小笠原諸島の振興開発の基本的な方向性を検討する際の主な視点として、以下の点が考えられる。

## 1. 小笠原諸島振興開発の意義、目的及び必要性

- ・復帰50周年を迎える小笠原諸島の現在の社会情勢及び現状に照らして、振興開発の意義、目的及び必要性に変化はあるか。

## 2. これまでの振興開発施策の評価と課題

- ・これまでの振興開発施策によって社会資本の整備やソフト事業が着実に進められてきたが、今後はどのような分野を重点的に進めることが必要か。

## 3. 産業の振興

- ・小笠原諸島の強みを活かした産業の振興について、どのような施策を講じる必要があるか。

## 4. 生活環境の改善

- ・小笠原諸島は本土から約1,000km離れた外海離島であり、保健・福祉・医療を小笠原村内で確保することが必要となっているが、このような状況において、どのような施策を講じる必要があるか。

## 5. 自然環境の保全・再生

- ・小笠原諸島においては、世界自然遺産登録を踏まえて、ユネスコ世界遺産委員会からの要請事項である外来種の駆除や固有種の植生回復、自然を観光資源として活用するための遊歩道の整備や自然ガイドの育成などを振興開発施策として行っているが、他の振興開発施策とどのように両立させていくべきか。

## 6. 防災対策による安全・安心の確保

- ・小笠原諸島は台風の発生・常襲地帯であり、去年は台風15号によって50年に1度の記録的大雨となった。また、東南海・南海地震が発生した場合には小笠原諸島 父島には最大で19mの津波の到達が予測されている。このような状況の中、島民の安全・安心を確保するための施策は十分なものとなっているか。

## 7. その他

- ・就業及び定住の促進、人材の育成などは、国内の多くの地域で取組が行われているが、小笠原諸島においては、この目標に対して、どのように戦略的に施策を実施していくべきか。
- ・このほか、小笠原諸島が我が国の領域、排他的経済水域及び大陸棚の保全、海洋資源の利用、多様な文化の継承、自然環境の保全、自然とのふれあいの場及び機会の提供、食料の安定的な供給その他の我が国及び国民の利益の保護及び増進に重要な役割を担っていることに鑑み、その役割が十分に発揮されるようにするために必要な施策はあるか。